

日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会主催

公開シンポジウム

# 原子力発電所の自然災害への対応

—福島事故の津波対策を例として—

2017年8月1日(火)13:00~16:35

日本学術会議講堂

本分科会では、我が国の津波想定に係る検討および対策の経緯、福島事故以降に明らかになった津波に関する知見を検討してきた。

今後発生すると言われている東南海地震では、相当数の犠牲者が想定されており事業者、規制部門、地方自治体を含んでの防災を喚起するため、本シンポジウムにより原子力発電所の津波対策の問題点、あわせて自然災害への対応策を社会に広く提起する。

■ **主催者代表挨拶**: 矢川 元基(原子力事故対応分科会委員長)

■ **講演**

13:10~13:50: 福島第一原子力発電所事故発生以前の津波高さに関する検討経緯  
—想定津波高さと東電の対応の推移—、

吉田 至孝(株式会社原子力安全システム研究所主席研究員、  
福井大学附属国際原子力工学研究所客員教授)

13:50~14:15: 今後の東南海地震への対応・リスク評価の考え方、BWR型、  
仲村 治朗(中部電力原子力本部原子力土建部部長)

14:15~14:40: 今後の東南海地震への対応・リスク評価の考え方、PWR型、  
笹田俊治(九州電力テクニカルソリューション統括本部土木建築本部)

14:40~15:05: 新知見の活かし方と仕組み—どうあるべきか—、  
関村 直人(東京大学大学院工学系研究科教授)

■ **パネルディスカッション** / 原子力発電所におけるこれからの自然災害対策

15:15~16:30 ファシリテーター: 宮野 廣(法政大学大学院客員教授)

パネリスト: 今村 文彦(東北大学災害科学国際研究所教授津波工学研究分野)

佐野 正博(明治大学経営学部教授)

関村 直人(東京大学大学院工学系研究科教授)

仲村 治朗(中部電力原子力本部原子力土建部部長)

吉田 至孝(原子力安全システム研究所、福井大学)

■ **まとめと閉会挨拶**: 松岡 猛(宇都宮大学非常勤講師)

入場無料・事前申し込み不要(定員 300名)

日本学術会議ホームページ <http://www.scj.go.jp>